

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	45	利用者一人ひとりの習慣や好みをよく聞き、利用者のその日の希望を確認して、一人ひとりに合わせた入浴支援を行う。	入浴回数を増やすと共に、個人浴など可能な方は希望の時間帯に入浴してもらう。	各フロアが協力し時間帯・業務内容の調整を行い入浴回数の検討と個々にあわした入浴支援を行う。	3カ月
2	40	食事は利用者にとって喜びや楽しみをもたらし、毎日の生活の中でも重要な位置を占めている。委託業者と話し合って協力して、利用者が毎日の食事を楽しみ、喜ぶことができる環境作りに取り組む事を期待する。	食事・おやつ等、食を楽しむ環境作りに努める。	おやつレクの回数を増やすと共に、おやつの買出しを入居者との外出時にするなど、楽しむ機会を設ける。また、屋上菜園を活用し旬の野菜を使った料理やハーブティー等、楽しむ環境作りに努める。	3カ月
3	35	災害はいつ発生するかわからないため、職員だけの誘導には限界がある。事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得て、定期的に避難訓練を実施することを期待する。	医療連携をしている隣接した医院と避難訓練を実施し、今後地域住民と協力した避難訓練の実施を目指す。	連携をしている医院と情報交換や計画を密に行い、避難訓練の計画、実践に取り組む。また今後は、自治会との話し合いを重ね、合同の避難訓練の計画に取り組む。	5カ月
4	52	利用者が多くの時間を過ごす共用の場は、居心地よく安心感があるように整えることが求められる。利用者・家族等の意見を聞きながら、利用者がテレビを観たり、おしゃべりしたり、一人でゆったり居心地よく過ごせる共用の場になるような工夫を期待する。	過ごしやすく、居心地良い空間作りに努める。	その時に応じた机の配置や席等を、利用者・家族に意見を聴きながら検討していく。	5カ月
5	6	職員は、身体拘束の内容とその弊害を理解したうえで、職員の見守り方法の徹底や利用書の状況を把握し、職員間の情報交換を密にするとともに、家族等とも丁寧に話し合いを重ね、利用者が抑圧感のない自由な暮らしができるように、安全面に配慮しつつ拘束のないケアに取り組むことを期待する。	身体拘束の緩和	身体拘束を必要とする状態時には家族に説明し意見を聴く、職員間でミーティングを行い、身体拘束を極力必要としないケア方法を検討し実施する。	3カ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

評価結果の通知を受けた日から概ね2週間から30日以内に作成し、市町と評価機関に提出してください。(提出必須)